

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【医学部保健学科】

医学部保健学科では、高度の医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職の育成を目的としたカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定めます。

【看護学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化，自然・科学，人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語，多言語】を身に付け，保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・専門共通科目は，各専攻に共通して必要な科目であり，保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに，保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【保健学概論，コミュニケーション論，医療リスクマネジメント，人体形態学，人体機能学，人体病理学など】
- ・専門基礎科目及び専門科目は，養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり，1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし，講義の後に演習・実習を展開します【母性看護学概論・演習実習，小児看護学概論・演習・実習，成人看護学概論・演習・実習，老年看護学概論・実習・演習，精神看護学概論・演習・実習，在宅看護学概論・演習・実習など】
- ・看護専門職に必要な知識を体系的に教授することで，人間や社会への洞察を深化させ見通す力を養います。【人間発達論，疾病論，社会福祉学，看護学概論，看護技術学，看護過程論演習など】
- ・看護学の専門知識を活用し，社会的ニーズの変化に気づき柔軟に対応し，チーム医療の一員として，他職種と連携・協働，調整能力を発揮し問題を解決していく力を培います。【看護学概論，基礎看護学実習など】
- ・看護専門職の教育や啓発に役立つ基礎的能力を身に付け，創造力と探求の習慣を確立し，生涯にわたって看護学を発展・向上させようと学び続ける力を培います。【看護教育学概論，看護教育方法論，卒業研究など】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより，卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 年次配置に応じて講義，演習，実習を効果的に組み合わせた教育を行います。
- (3) 主体的に学び続け，見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (4) 自ら課題を見出し，その解決に向けて探求を進め，成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため，学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため，カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し，GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は，定期試験，実技試験，レポート，授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし，その評価方法については，授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【放射線技術科学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化，自然・科学，人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語，多言語】を身に付け，保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおりて国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・専門共通科目は，各専攻に共通して必要な科目であり，【人体形態学，人体機能学，等】保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに，保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質の育成を目指します。【保健学概論等】
- ・専門基礎科目及び専門科目は，養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり，1年次から専門基礎科目を組み込んだ楔型の構成とし，講義の後に演習・実習を展開します。【放射線物理学・演習，放射線計測学・演習・実験，等】
- ・専門知識と技術を統合するよう体系的に教授することで，論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を養います。【診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ・演習，核医学検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，放射線治療機器工学・放射線治療技術学・演習Ⅰ・演習Ⅱ，等】
- ・放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用し，高度な専門知識を活かして問題を解決するための学術的問題解決能力を養います。【卒業研究等】
- ・診療放射線技師として，日々目覚ましく進歩を遂げる医療技術を学び，探求する習慣を獲得します。【臨床実習Ⅰ・Ⅱ等】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより，卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 主体的に学び続け，見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (3) 自ら課題を見出し，その解決に向けて探究を進め，成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため，学生が主体となる能動的な授業を拡充します。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため，カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し，GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は，定期試験，レポート，授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし，その評価方法については，授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【検査技術科学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化，自然・科学，人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語，多言語】を身に付け，保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおりて国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに，保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います【教養教育：スタディスキル導入科目，学部越境型地域志向科目，キャリア教育】。
- ・専門共通科目は，各専攻に共通して必要な科目であり，保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに，保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【保健学概論，コミュニケーション論，医療リスクマネジメント，人体形態学，人体機能学，人体病理学など】
- ・専門基礎科目及び専門科目は，養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり，1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし，講義の後に演習・実習を展開します。【医用情報機器工学，臨床生理学，臨床化学検査学，栄養・代謝学，分子生物検査学，尿検査学，病理組織細胞検査学，臨床免疫学，臨床血液学，臨床微生物検査学，内科学Ⅰ,Ⅱ，衛生学・公衆衛生学

など】

- ・臨床検査技師として必要な実践力を習得するとともに、専門知識と判断力をもって保健医療の一端を担う臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けます。【検査管理総論、臨床検査総合演習Ⅰ,Ⅱ、臨地実習など】
- ・チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身に付け、問題解決能力を高めます。【地域医療検査学、感染制御学など】
- ・臨床検査技師として、保健医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。【卒業研究など】。

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 臨床検査に関する専門知識と技術の系統的な教育を行う。学習は講義・演習・実習を段階的に実施することで知識・理解・実践力を高め、臨床検査技師として必要な見通す力と解決する力を身に付けさせます。
- (3) 将来にわたって自ら臨床検査学分野の課題を見出し、その解決に向けた論理的思考力と実行力を養うため、日頃からプレゼンテーション、グループディスカッション、アクティブ・ラーニングを取り入れた学生主体の能動型授業を展開します。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などから臨床検査に関する専門知識及び技術の修得達成度を客観的に評価する。その評価方法については、授業内容の詳細とともに到達目標と成績評価基準をシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【理学療法学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとらして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います【教養教育：スタディスキル導入科目、学部越境型地域志向科目、キャリア教育】。
- ・保健医療専門職に必要な人体に関する基礎知識と健康・保健の知識・考え方を身に付けるとともに、保健医療専門職それぞれの役割と協働・連携について理解し、個人や社会における諸問題や課題を多面的に見通す力を養います。【専門共通科目：人体形態学、人体機能学、人体病理学、保健学概論、医療リスクマネジメント】
- ・リハビリテーションと理学療法に関する専門的知識・技術と考え方を1年次から体系的に学修し、リハビリテーションの対象者が抱える諸問題や地域の課題を見きわめ、チーム医療の一員として解決していく力を養います。【専門基礎科目：運動学、理学療法学概論、リハビリテーション医学】、【専門科目：理学療法評価学、臨床判断分析学、運動療法学、物理療法学、義肢装具学、筋骨格系障害・神経系障害・脳障害・内部系障害・小児・スポーツ障害理学療法学、地域理学療法学、理学療法管理学、臨床実習Ⅰ～Ⅴ等】
- ・理学療法学の学術的課題を計画的および論理的に探求・解決するための研究方法を身に付け、理学療法士として社会貢献を意識し、生涯にわたって自己の成長と保健医療分野の問題を探求・解決するために学び続ける力を養います【専門科目：理学療法研究方法論・理学療法研究演習】、【卒業研究】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、

卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。

- (2) 理学療法に関する専門教育をとおして理学療法の専門知識と実践力を習得し、リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (3) 演習、実習、臨床実習、卒業研究をとおして、その課題の解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、実技試験、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【作業療法学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います【教養教育：スタディスキル導入科目、学部越境型地域志向科目、キャリア教育】。
- ・保健医療専門職者として各専攻に共通して必要な基礎知識を修得させます。【専門共通科目：人体形態学、人体機能学等】
- ・チーム医療の一員である保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【専門共通科目：保健学概論、医療リスクマネジメント等のコア科目】
- ・養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な専門基礎科目及び専門科目は、1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。
- ・チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる基礎的な力を養います。【専門基礎科目：リハビリテーション医学、言語療法学等】
- ・作業療法士に必要とされる実践力を涵養し、専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を養います。【専門科目：作業療法評価学、作業治療学、臨床実習等】
- ・作業療法士として、リハビリテーション医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を養います。【卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 作業療法に関する専門教育をとおして作業療法の専門知識と実践力を習得し、リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (3) 演習、実習、臨床実習、卒業研究をとおして、その課題の解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。

- (2) 演習，実習，臨床実習，卒業研究をとおして，課題解決に向けての主体性・自律性およびリハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を評価します。
- (3) 各科目の学習成果は，定期試験，レポート，授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし，その評価方法については，授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。